

## 千葉 ライフ・ライン ニュースレター No.133

【発行】千葉県テレビ伝道協力会  
〒260-0021 千葉市中央区新宿2-8-2  
CCCビル 「千葉ライフ・ライン係」  
TEL 043-247-3058 FAX 043-247-3072  
E-mail: [info@chiba.life-line.tv](mailto:info@chiba.life-line.tv)  
ホームページ <http://chiba.life-line.tv/>  
郵便振替：00110-8-579669

【協力】財団法人 太平洋放送協会(PBA)  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台  
2-1 OCCビル  
TEL 03-3295-4921 FAX 03-3233-2650  
E-mail: [mail@pba-net.com](mailto:mail@pba-net.com)  
ホームページ <http://www.pba-net.com>  
でんわ世の光 03-3291-9061

## テレビを通じての対話の広がり

日本センド派遣会総主事・聖望キリスト教会宣教師 宮村 武夫

昨年5月24日、25年間生活した沖縄から関東に戻り、市川に住むようになりました。それで浦島太郎でなくとも、浦島次郎くらいの新しい経験をしています。

先日8月17日(金)も、午前6時からのNHK「お早う日本」で、浦安夢のみずうみ村での私のリハビリの様子を伝えてくれました。7時前後に、「バリヤアリー」のタイトルとともに、みずうみ村が紹介され、大きな階段をのぼったり、リハビリの一つとして料理を準備している場面やそれを家で妻君代と食している場面など、時間を費やして短くまとめた製作者の心が伝わってきました。

番組が終わるやいなや沖縄から電話がありました。30年前私たちを沖縄に招くにあたり中心になった、今年83歳になる方で、テレビの画面に私の姿が映し出されて、涙が出そうだったとのこと。

沖縄からは電話とともにメールも届きました。

「宮村先生ご夫妻、

・・・宮村先生が急な階段を勇ましく上る姿に驚かされました。インタビューで語っておられた言葉は、力強く印象に残っております。ご自宅での様子、少々緊張した面持ちの君代姉様が配膳をしておられました。この年齢でしか味わうことのできない、ご夫妻の幸せがそこにあると感慨深く思われました。主に従って歩んでこられた人生が、これからも地の塩・世の光として大いに用いられますよう、期待しております。これから老後生きる我らにとりましても、希望となる福音を伝える番組内容でした。あと、人生における試練の意味についても考えさせられました。・・・」

驚いたことには、ブラジルの佐藤宣教師からメールが届きました。さらにブラジルばかりでなく、方向の違うヨーロッパの田辺宣教師やカナダの村井宣教師からも番組を見たとの連絡がありました。

今回のことで、忘れられない恵みの一つは、番組の制作に当たった方々と親しくお話しできたことです。対話の波紋の広がりです。

テレビ伝道番組「ライフ・ライン」が、以上の事例にも見る、テレビの浸透性と伝達性の特徴を活用、千葉の地域における福音宣教を進展し続けるを期待します。

お茶の間に福音！

チバテレビ土曜あさ7時、心をいやす30分「ライフ・ライン」

ご家族でお楽しみ下さい。